

ぼくの中学受験

ぼくが関西学院中に行きたいと思い始めたのは六年生の夏休みだった。ふつうの人なら何年か勉強してそれでももう分かる分からないような所だったけど、ぼくに残された時間は約半年しかなかった。親にも無謀と言われつつも、死にもものぐるいで勉強して関学にチャレンジしようと思った。

そして塾に入り勉強を始めた。夏休みに小六の勉強をし、二学期からはさらに難しい勉強をした。算数か思うようにのびず国語は思う以上にのびた。10月から夜も土曜日も日曜日もがんばることにした。そのかいあって少しずつだけ算数ものびてきて、ひょっとしたら、という所まで追いつめた。寒い冬休みだ、て一日も休まなかつた。意地でも合格したいという執念がぼくをか人はらせてくれた。

1/2

また健康管理にも気をつけた。冬休み雪が降った時があつた。本当はぼくもみんなさそつて遊びたかつたけど、関学に合格したいという願いのの方が数十倍も強かつた。いよいよ受験まであと数日にもなると、一日中ドキドキ緊張してりた。

ついに迎えた受験当日。もう本当に緊張して面接の時もふるえているのが分かつた。しかし自分の持っている力を全て出してきた。勉強したせいであつて、意外と鉛筆が進んだ。ここまでがんばつたんだから絶対合格、キヤないと思つた。

そして次の日結果が発表された。なんとみごと合格だつた。思わず笑顔がうかんだ。人に一人しか採らないのに合格できたことが心の底からうれしかつた。勉強したのは半年たつたけれど合格できた自分にほめてあげたかつた。関学に入つてからも一生懸命勉強して立派な人間になろうと思つた。